

日田市豆田町(大分県)

(1) 保存地区の概要

地区名	日田市豆田町
種別	商家町
面積	約10.7ヘクタール
選定年月日	平成16年12月10日

天領時代に町人地として発展した豆田町とその周辺は、往時の地割をよく残し、伝統的な建物が群として良好に残っています。南北2本の通りと東西5本の通りからなる整然とした町割や、街区の敷地割は、江戸初期の城下町建設時の形状を引き継ぐものです。

豆田町では明和9年(1772)や明治13年(1880)、明治20年(1887)に大火があり、火災を契機に茅葺の町家が居蔵造(いぐらづくり(瓦を葺いて木部を土で塗り込める造り))へと変わっていきました。江戸期から大正期に建てられた居蔵造の町家を中心に、木部を見せる真壁造の町家、近代の洋館、醸造蔵、昭和初期の三階建家屋等が並び、町ごとに特徴ある歴史的景観を残しています。

特 徴



(2) 保存地区のあゆみ

平成3年度(1991)	日田市景観ガイドプランの策定 日田市都市景観条例の制定
平成10年度(1998)	景観助成制度の開始
平成13年度(2001)	「美しいまちなみ大賞」受賞(国土交通省)
平成14年度(2002)	豆田地区町並み保存対策調査を実施 (~15年度)
平成15年度(2003)	日田市伝統的建造物群保存地区保存条例 の制定
平成16年度(2004)	豆田町伝建保存会の発足 NPO法人本物の伝統を守る会設立 日田市豆田町伝統的建造物群保存地区の 都市計画決定 重要伝統的建造物群保存地区に選定
平成17年度(2005)	修理修景事業の開始
平成18年度(2006)	長福寺本堂が国重要文化財に指定
平成21年度(2009)	草野家住宅が国重要文化財に指定
平成24年度(2012)	九州北部豪雨による記録的大水害
平成25年度(2013)	廣瀬淡窓旧宅が国史跡に指定
平成27年度(2015)	豆田町を構成要素に含む「近世日本の教育 遺産群—学ぶ心・礼節の本源—」が日本遺 産認定
平成28年度(2016)	日田祇園の曳山行事が「ユネスコ無形文化 遺産」に登録
平成29年度(2017)	九州北部豪雨による記録的大水害

日田市豆田町(大分県)

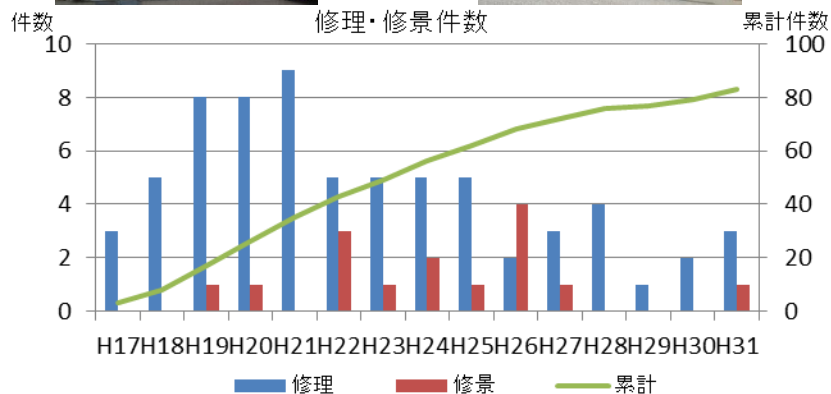
(3) 保存地区の保存と整備

1) 修理・修景事業

修理前



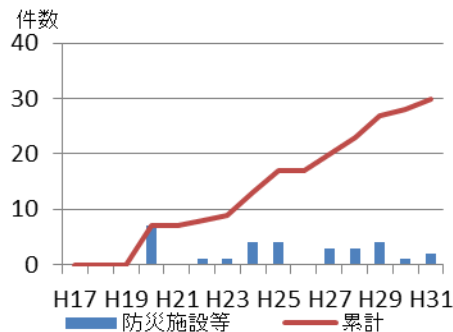
修理後



2) 防災事業



屋外消火栓の設置



3) 公開活用事業(豆田まちづくり歴史交流館の整備)

修理前



修理後



4) その他の事業

- 平成10年(1998) 電線類地中化 約800m (歴史国道事業) (~12年)
- 平成19年(2007) 電線類地中化 約385m (くらしのみちづくり事業) (~20年)
- 平成26年(2014) 道路美装化 4路線 約500m (街なみ環境整備事業) (~29年)
- 平成29年(2017) 豆田まちづくり歴史交流館小公園整備事業 (街なみ環境整備事業)

(4) 保存地区の活用とまちづくり

1) 地区のおまつり・イベント

●日田祇園祭

- ・7月20日過ぎの土・日曜日
- ・約300年の歴史を誇る日田の夏の伝統行事。
- ・疫病や風水害を払い安泰を祈念するこの祭りでは、絢爛豪華な山鉾が、祇園囃子の音色と共に豆田地区の町並みを巡行します。
- ・夜には提灯を飾り付けた優雅な晩山の巡行が行われ、祭りは一気に最高潮に達します。
- ・平成28年12月「日田祇園の曳山行事」が『ユネスコ無形文化遺産』に登録されました。

●日田天領まつり

- ・11月の第2土・日曜日
- ・江戸時代には幕府直轄地の天領として栄え、九州を統括する「西国筋郡代」が置かれた日田の地で、往時の郡代着任風景を再現した「西国郡代着任行列」や日田の先哲を紹介する「日田歴史絵巻行列」が見られます。
- ・昭和54年に住民の手により、まちづくりの一環で始められました。

●千年あかり

- ・天領祭りの夜のイベント
- ・3万本の竹灯ろうで豆田の町並みや河原を優しく照らし出し、幽玄の世界へと誘います。
- ・周囲の里山に繁茂する竹林の整備と竹の有効利用のために平成17年から始まりました。

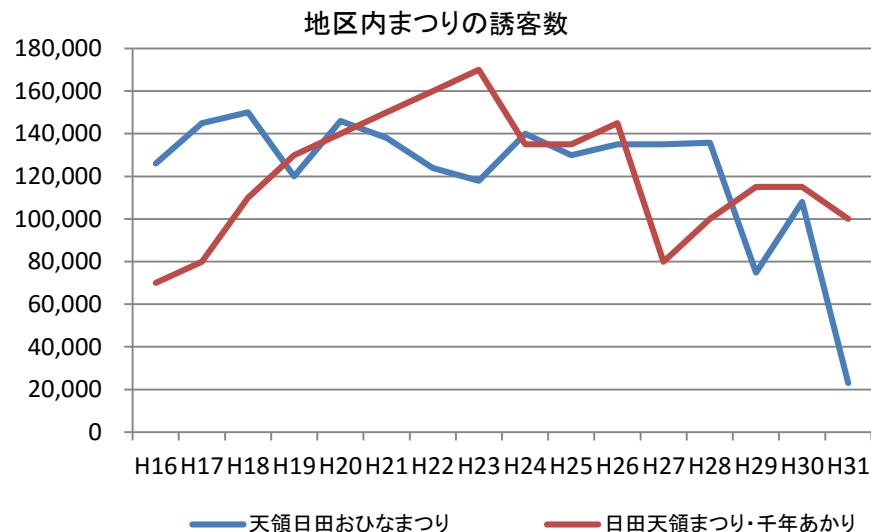
●天領日田おひなまつり

- ・2月15日～3月31日
- ・掛屋を中心とする豪商たちが活躍し、町人文化が花開いた豆田の旧家には、京や大阪で買い求めた絢爛豪華な雛人形やひな道具の数々が今も残されており、一斉に展示・公開しています。
- ・昭和59年3月草野家住宅(重要文化財)で第1回升屋おひなまつりが始まりました。

●天領ひなまつり健康マラソン大会

- ・地区内の町並みをランナーが駆け抜けます。

2) 観光客の推移



日田祇園祭



日田天領まつり



千年あかり



天領日田おひなまつり

(5) 住民等の取組

1) 各種団体

●豆田町伝建保存会

会員数: 約190名

構成: 豆田地区内外の住民など

主な活動: 町並み保存事業への協力
会報の発行など

●NPO法人 本物の伝統を守る会

会員数: 約30名

構成: 設計士、施工者

主な活動: 地区内の修理・修景の相談・協議
伝統的建造物等の設計・監理
古建築の調査研究及び技術の継承

●技能士会

会員数: 約20名

構成: 大工、左官、板金等の技術者

主な活動: 技能の普及PR活動
後継者育成

2) 取組例

- ・4者協議 豆田町伝建保存会、本物の伝統を守る会、技能士会、行政とで毎月会合を持ち、情報共有・諸問題の解決に努めています。
- ・防火訓練 文化財防火デーにちなんだ屋外消火栓の放水訓練、緊急連絡網の整備・確認、AED講習等を実施しています。



屋外消火栓放水訓練



AED講習受講

3) 住民の声

●豆田町伝建保存会

地区内では、高齢者の死亡や若者の転出が主な原因となって、選定後10年で60名、率にして16%の減少が見られます。

豆田地区ではひなまつりや祇園祭、天領まつりや千年あかりなど、歴史的な遺産や景観を生かしたまつりが行われています。

皆が自分の出来る範囲で協力して参加しあうことが出来れば、町の活性化に繋がりはいては域外の参加も増えてくると考えます。

4) 日本遺産の取組

平成27年4月24日、日田市が水戸市、足利市、備前市と共同申請したストーリー『近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—』が、日本遺産に認定されました。

ストーリー『近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—』

我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示しました。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、いち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれています。

ストーリーを構成する主な文化財として、①咸宜園跡(国史跡)、②豆田町(重伝建)、③廣瀬淡窓旧宅(国史跡)、④長福寺本堂(国重文)等があり、中でも、①咸宜園跡は、廣瀬淡窓が開いた近世日本最大規模の私塾です。「咸(ことごと)く宜(よろ)し」とは、すべてよろしいという意味で、一人ひとりの個性を大切に淡窓の思いが込められています。その思いは、入門の際に年齢・学歴・身分を問わない「三奪法」や学力を客観的に評価する「月旦評」などにあらわれています。このような教育方法が評判を呼び、咸宜園には全国各地からたくさんの門下生が集まりました。

この咸宜園教育は、現在も市内の小学校において授業に取り入れられています。



①咸宜園跡
(国史跡)



③廣瀬淡窓旧宅
(国史跡)



④長福寺本堂
(国重文)



JAPAN HERITAGE
日本遺産